

## 「松下アジアスカラシップ」詳細

助成番号	研究テーマ(留学目的)		
	留学国	留学機関	留学期間
	氏名	所属	区分
98-005	20世紀のモンゴルにおける社会変革と演劇・メディア		
	モンゴル	国際モンゴル学会連盟	1999.3 ~2000.3
	木村理子	東京大学大学院	院生博士

### 研究テーマ(留学目的)の説明 (助成決定時のテーマ。文責は本人)

1924年モンゴル人民共和国成立後、ソ連の指導によって始まったモンゴル現代演劇は文芸・芸術検閲機関により幾度も検閲された後上演が許されたプロパガンダ演劇であり、その検閲システムを詳細に把握することは、社会主義時代における演劇の社会性と芸術性を考察するのに不可欠である。社会主義建設の担い手として形成されたモンゴル現代演劇は、1990年の民主化により、プロパガンダとしての演劇から脱却し、表現の自由を享受しつつも、市場経済への移行によって今度は商業演劇化へと向かっている。20世紀のモンゴルにおける社会主義建設とその崩壊、民主化という社会体制の変革によって、大衆への啓蒙手段として有用されてきたメディアとしての演劇が未知の“表現の自由”をどのように表象し、演劇としてのメディアへと転換していったかそのプロセスを研究する。

政府交換留学生としてモンゴルに留学していた1989年に、モンゴルにおいて民主化運動が高まり、現地で民主化を体験し、その後も民主化へ移行する社会変革の過程を現地で見続けて来た。また、1993年よりモンゴルの主要な新聞にモンゴル語でモンゴル現代演劇評論を書き続けている。これまでの現場での調査に基づいて、現在「20世紀のモンゴルにおける社会変革と演劇メディア」というテーマで博士論文の執筆を行っているが、今回の留学では20世紀最後の年におけるモンゴル演劇状況を調査するため、一年間のフィールドワークを計画している。

又、ロシア演劇に始まった20世紀のモンゴル演劇が、ロシア演劇至上主義から脱却し、21世紀への新たな多様な可能性を探ることを目的とし、今回の留学期間中に現地の演劇人と共に“アジアのモンゴル”をテーマにした、新しい演出方法による演劇を上演することも検討している。

# 成果報告書

98-005

木村 理子 モンゴル 国際モンゴル学会連盟

平成11年3月6日～平成12年3月3日までの1年間の留学期間中に、モンゴル国内およびプリアート、内蒙古の劇場における民族演劇の現状を調査したが、モンゴル国内全ての劇場を現地で調査するという事は、外国人研究者のみならずモンゴル人も行なうことがなく、今回の留学によって、モンゴル演劇事情に関する貴重な資料を得ることができた。また、地方劇場の調査に際し、モンゴルの全アイマグを車で移動したことにより、モンゴル各地の風土や遊牧民の暮らしに直接接触することができ、地方の現状を知る機会にもなった。そして、今回の留学期間中に、プリアート及び内蒙古の民族劇場の現状を調査することができ、モンゴル国内外のモンゴル民族における劇場メディアを介した言語文化の社会性について比較考察していきたいと考えている。

今回、1年間の留学期間中に、当初の留学計画をほぼ実現することができたが、1年間という短期間にモンゴル全地域の調査を行なったために、詳細な調査までには至らなかった。今後は、今回の調査に基づき、研究テーマを絞り込み、更に詳細な調査を続けていきたいと思う。また、国立歴史公文書館や人民革命党公文書館における「社会主義時代の演劇検閲状況」に関する資料収集は、まだ不十分であるため、留学終了後も、引き続き、資料収集を行なっていく予定である。この1年間の留学期間中、調査のための移動が多かったため、現在のところ、まだ、収集資料、映像写真、調査データを整理している段階にあるが、近いうちに今回の調査資料を何らかの形で発表したいと考えている。今後の課題として、今回の調査資料を基に、民主化以降の演劇事情を含めた「モンゴル演劇史」の執筆を予定している。

## I. モンゴル国内において行なった劇場調査

モンゴル全国規模での現代モンゴル演劇事情と地方劇場の運営状況を調査するため、下記の劇場でインタビューを中心にしたフィールドワークを行なった。

### 1) 国立ドラマ・アカデミック劇場（首都ウランバートル市）／演劇有り◎◎／

《新しい上演作品とモンゴル演劇の現状に関する調査》

1999年初演作品「Тамгагүй төр（印なき政権）」【写真①】など。

1921年に創設されたスフバートル名称クラブから発展し、1931年に設立された中央劇場を基礎とする、モンゴル演劇における代表的劇場。近年の制作・上演は、主に、ソロス財団の助成金に頼る形で行なわれている。

### 2) モンゴル国内全21アイマグ（県）の劇場（調査順）

《地方劇場の運営状況と上演されている演劇に関する調査》

モンゴルの人口約200万人のうち、4分の1にあたる約65万人が首都ウランバートルに集中しているが、ウランバートルを一步出ると、そこには、広大な草原に遊牧民が点在する〈地方〉が広がる。経済困難や過疎化が進んでいる地方に存在する劇場の運営現状や演劇作品の傾向を、実際に全アイマグの劇場に赴いて、現地調査を行なった。

1.ドルノ・ゴビ (サインシャンド) サラン・フフー名称音楽ドラマ劇場／演劇有り◎／  
(1回目：1999年4月29日～5月3日、2回目：10月27～29日)

地方劇場の中で一番積極的な経営を行なっており、映画上映、民族音楽コンサート、演劇など、日に3～4の公演が行なわれている。地域社会の交流を深めるため、アイマグ内の村々の演奏家や芝居の発表会も企画している。また、村への巡業公演も行なっている。演劇に関しては、地域の特色を生かしたテーマで、劇場所属の演出家によって制作されている。1999年の代表作には、ダンザン・ラブジャーの幼少期を描いた「Гэгээн домог (ゲゲーン伝説)」がある。

ダンザン・ラブジャーのサラン・フフー劇場 (草原の劇場) 跡地視察：19世紀に、ダンザン・ラブジャー・ホトクトによって草原に建てられた劇場であり、1937年の粛清によって跡形もなく破壊された。粛清当時、脚本や衣裳は洞窟に隠されたが、1964年に焼滅。粛清の際、地中に隠すことができたダンザン・ラブジャーに関する品々が1990年の民主化以降に掘り出され、その中には戯曲「サラン・フフー」の脚本や衣裳も含まれており、現在、ドルノゴビ・アイマグの中心地サインシャンドにあるダンザン・ラブジャー博物館に展示されている。今回の留学期間中に2度(5月1日と10月28日)、サインシャンドより南に約50キロ離れた劇場跡を視察したが、2003年をめどに、同博物館と協力して、サラン・フフー劇場を復元復興する計画を進めている。建物、脚本、演出、衣裳、音楽を復元し、上演する予定。

2.スフバートル (パローンオルト) 音楽ドラマ劇場 (6月5～7日)／演劇有り△／  
現在は閉鎖寸前の状態。劇場は市の最南端に南向きに位置している。1932年初演のボヤンネメフ作「Харанхуй засаг (暗政)」を一昨年より再演。

3.ドルノッド (チョイバルサン) 音楽ドラマ劇場 (6月7～10日)／演劇有り○／  
1950年に建設されたモンゴル初の地方劇場であるが、市の中心が移動した結果、中心街より4キロ離れてしまい、市内バスなど交通手段がない状況で、入場場者数が減少し、劇場経営に影響が及ぼされている。現在、市街地に新劇場の建設を予定中。子供のための劇「Сар нуугдсан шөнө (月を隠した夜)」を上演して見せてくれたが、開演10分後に停電のため、中止となる。

ダシバルバル村の文化センター (プリヤート族居住村) (6月9日)／演劇有り○／  
村の青年や老人によってプリヤート民族劇、歌、踊りなどを文化センターにて行なっている。1962年よりプリヤート語による演劇の上演が始まる。電気がないので、ホンダのモーターを使用しての上演。チョイバルサンの劇場の演出家マンガルジャブ氏演出による1998年上演「Зовлон Жагдал (幸・不幸)」には、ドルノッドが戦場になったハルハ河の戦いにおける反日抗戦の場面を含んでいる。

4.ヘンテイ (ウンドルハーン) ハンヘンテイ・チョールガ (歌舞団) (6月10日)  
地方に初めて建設された歌舞団。現在、経営難。4月の給与が出ていない状態。

5.ウブルハンガイ (アルバイヘール) 音楽ドラマ劇場 (6月14、15日)

ソ連軍の基地都市として建設されたため、ウランバートルまで舗装道路が整備されている。ソ連軍の基地があったため、ロシア人の人口が多かったが、89、90年よりロシア軍が撤去し、現在、アルバイヘールの人口は約3万人。劇場は、1985年に建設され、600席のホールと300席の会議室を備え、創作集団を伴っているが、

会議や映画上映やコンサート公演に利用され、貸館（ホール）化しつつある。劇場長バータル氏によると「現在、（劇場は）方向性がかめめない状態にある」とのこと。

#### 6. バヤンホンゴル（バヤンホンゴル）音楽ドラマ劇場およびテムジン・テアトル

（6月15日～17日）演劇は本来上演されていたが、現在、演出家がないため、創作活動は停止状態。90年より学校の児童が鑑賞する人形劇団を小ホールに結成。劇場の創作活動は滞っており、貸しホール化しつつある。一方、劇場内に1989年に非営利団体として「テムジン・テアトル」が設立されたが、このテアトルは、バヤンホンゴルの児童による創作民族舞踊団であり、国内外で公演を行なっている。

#### 7. ゴビ・アルタイ（アルタイ）アルタイ・チョールガ（歌舞団）（6月17、18日）

照明室が2階、音響室が舞台横にあるにもかかわらず、担当者は一人。6月18日にフブスグルの劇場の巡業公演が同劇場に来ており、喜劇「ДОХ БАГ」を上演。

#### 8. ホブド（ホブド）音楽ドラマ劇場（6月18～22日）／演劇有り◎／

モンゴルで2番目に建設された地方劇場。ロシアから購入している電力がロシアから届かなくなり、ホブド市は現在も停電状態が続いている。停電の際には、劇場も休業になる。劇場には専門の演出家がないが、有名なホーミー奏者であるセンゲドルジ氏が演出家兼俳優として演劇制作に携わっている。実際にホブドで起こった事件を基に、現地の学校の先生が地方の生活を描いた戯曲「Хүргэн болохын өмнө（婿になる前）」をセンゲドルジ氏自身が演出、出演している。電気がないので、2時間かけて旧ソ連製小型発電機を作動させ、実際に舞台上で同作品を上演して見せてくれた。

#### 9. バヤンウルギー（ウルギー）音楽ドラマ劇場（6月22～24日）／演劇有り◎／

カザフ人居住地域。劇場は1993年に新しく建て替えられ、モンゴルの規模を誇る。劇場長はじめ殆ど全員がカザフ人で、全てカザフ語による。モンゴルの作品はカザフ語に訳され、上演される。カザフ民族音楽のコンサートもあり、民族音楽奏者育成が今後の課題。暖房設備不備のため、上演は夏のシーズンに限られている。演劇は積極的に制作されており、1999年は、モンゴル作家ナムダクの「Амьдрал ба амьдрлын үнэ（生活と生活の知恵）」を劇場長マラルハン氏がカザフ語に訳し、ナウリズハン氏が演出している。西モンゴル地域は停電状態だが、ウルギーのみ地方自治体がローンでロシアから電気を購入しているため、電力が供給され、劇場にも電気があるが、1KW=200Tとウランバートルの電気料金の5倍の値段である。1990年以降、カザフスタンに移住して行ったカザフ人が1994年よりウルギーに戻り始めたため、一時停滞していた劇場の活動も回復しつつある。

#### 10. ウブス（ウランゴム）音楽ドラマ劇場（6月24～26日）／演劇有り○／

ウブスには、ドゥルブッド、オイラート、バイドなど少数部族が居住。停電のため、ビデオ映画の上映を小型発電機1台で行なっている。通常、民族音楽コンサートと演劇を上演しているが、停電のため、地方への巡業公演などを行なっている。停電中であつたが、オイラート語喜劇「Хэцүү даваа（陰しい峠）」を実際に舞台上で上演して見せてくれた。また、モンゴル唯一のホタン族居住村であるタリャラント村では、「ピエルゲー」という民族舞踊が保存・伝承されている。

- 1 1.ザブハン (ウリヤスタイ) 音楽ドラマ劇場 (6月27~30日) / 演劇有り○/  
民族口承文芸よりテーマを取った喜劇「Жогорхуй ジョゴルホイ」を上演。  
過疎化と経済難で入場者減。劇場内にサウナとビデオ上映室を装備。
- 1 2.アルハンガイ (ツェツェルレグ) 音楽ドラマ劇場 (7月1日~3日) / 演劇有り/  
劇場は改装工事中であったが、現在、劇場の活動は滞っている様子。バヤンホンゴルの劇場より演出家が2人移って来ているため、今後の演劇制作が期待される。
- 1 3.フブスグル (ムルン) 音楽ドラマ劇場 (7月3~7日) / 演劇有り◎◎/  
民族舞踊の他、演劇が盛んに行なわれている。フブスグルのシャーマンをテーマにした創作ダンスや演劇が上演され、地方色を出している。ガンホヤグ氏演出による、シャーマンの神木の神霊性をテーマにした「Отгон модны цээрлэл (シャーマンの聖木)」を上演して見せてくれた。特に、喜劇は、脚本と演技力に優れている。アイマグ内だけでなく、西モンゴル地域へまで巡業公演を行なっている。
- 1 4.ボルガン (ボルガン) 音楽ドラマ劇場 (7月7~8日)  
民族音楽コンサート、民族創作舞踊が行なわれている。劇場は経営難。市内は停電・断水状態にあり、ウランバートルからの公演は、断水のために、実施されていない。
- 1 5.ドンド・ゴビ (マンダルゴビ) 映画ドラマ劇場 (10月24、25日)  
旧劇場の老朽化で、旧映画館に劇場が合併した劇場。現在、映画上映が主で、演劇は行なわれていない。人口の過疎化が進み、劇場経営は困難を来している。
- 1 6.ウムヌ・ゴビ (ダランザドガッド) 音楽ドラマ劇場 (10月25~27日)  
現在、改装工事中。内蒙古との交流に力を入れている。創作舞踊と馬頭琴演奏。
- 1 7.ゴビ・スンベル (チョイル) 文化センターおよび鉄道文化会館 (10月29日)  
ロシア軍基地として建設され、鉄道の駅にあたる町。93年にロシア人が全員退去してから、町は廃墟と化している。文化センター内部設備は荒廃している。鉄道文化会館は鉄道で働く人々のための公民館で、月例会議や学校行事、映画上映に利用されており、維持・光熱費は鉄道公団が負担している。
- 1 8.オルホン (エルデネット) 人形劇場 (11月3、4日) / 演劇あり/  
ソ連により建設された、エルデネット銅会社がある町。人形劇場という名称だが、同劇場で、コンサートや映画上映、演劇が行なわれている。映画制作も行なっている。
- 1 9.セレンゲ (スフバートル) セレンゲドリゴウ・チョールガ (歌舞団) (11月5日)  
スフバートルは北の玄関で、鉄道の駅に出入国管理局と税関がある。劇場の歌舞団による民族音楽コンサートが上演され、劇場内で社交ダンス会を週末に開催している。
- 2 0.ダルハン・オール (ダルハン) 青年劇場 (11月9日) / 演劇有り◎/  
ダルハンは、モンゴル第2の都市で、ソ連によって建設された。歌謡ショーやダンスの他、演劇の上演は、ウランバートルに次いで盛んに行なわれている。1999年の上演作品は、ツォグ氏演出による「Төмөр хүүхэн (鉄の女)」であり、社会主義時代のソ連ウズベクスタンのバシペーコフの戯曲である。
- 2 1.トゥブ (ゾーンモッド) ドウンジンガラブ劇場 (11月11日)  
ウランバートルに一番近い地方劇場。民族音楽団。入場者数が減り、経営困難。

### 【モンゴルの劇場について】

演劇は、他の舞台芸術よりも顕著に経済力と人口の影響を受ける芸術メディアである。もともと、モンゴル遊牧社会には定住型劇場は存在し難く、現在、モンゴルに存在する劇場は、1921年の人民革命以降、大衆への社会主義教育を目的として、ソ連の指導によって、社会主義建設のために設立され、1990年の民主化まで、人民革命党中央局イデオロギー課の監督・検閲の下に、運営されて来ている。ソ連において、「社会主義のプロパガンダと組織は、内容は国際的であっても、形式においては民族的でなければならない（カウツキー）」、「プロレタリアート独裁のもとでの民族文化とは何か？大衆を社会主義と国際主義の精神で教育することを目的とする。内容においては社会主義的、形式においては民族的文化である（スターリン）」としていたように、ソ連の指導によって建設されたモンゴルの劇場（演劇）の場合も、民族語による民族的文化という形式による大衆へのプロパガンダを目的として、成立した歴史をもつ。1990年の民主化以降、劇場は、社会主義時代の在り方から離脱することになるが、検閲機関がなくなったというものの、民主化から10年が経過してもなお、今だに上演作品に社会主義的形式が残存している状況にある。（例えば、一部の地方劇場では、1930年代の作品が再演されており、ダルハンの「Төмөр хүүхэн（鉄の女）」という作品には「資本主義分子！」という台詞が出てくる。）また、1996年に民主連合政権が成立した後、地方劇場の長も交替しているが、社会主義時代に人民革命党員から劇場長が選ばれていたように、今度は、民族民主党員や社会民主党員から人選されている場合が多く、劇場は政府機関の一つとして、政党との関連性を形式的に残している状況にある。

### 【モンゴル地方劇場の経営問題について】

民主化以降、1990年から始まった市場経済への移行によって、地方劇場は経済的困難に陥り、以前には考えられなかった劇場経営問題が最優先課題となって来ており、地域における公民館や娯楽センターのような存在になりつつある。〈地方劇場〉は、いずれの劇場も「創造集団」である劇団を抱えているため、劇場自ら創造活動を行い、地域社会に奉仕し、人材育成も行なわなくてはならない。しかし、モンゴルの劇場は、党によって運営されて来たために、民主化以降に生じてきた「劇場経営」という課題に対応できずにいる。本来、「劇場経営」と「劇団運営」、そして「貸ホール経営」とはそれぞれ異なる概念のものであるが、現時点では、今だに旧体制で培って来た理解から解放されていない。市場経済への移行過程で、経済困難と過疎問題を抱え、民主主義社会における劇場経営を教わらないまま、今後の地方劇場の存続は、各劇場の試行錯誤に委ねられている。少ない人口、進む過疎化、インフラの未整備、広大な草原に点在する遊牧民の移動生活、遊牧民の経済事情（遊牧民は、現金収入に乏しく、家畜や羊毛・皮革などと物々交換することが多い。）など、モンゴルの地方特有の事情を考え合わせると、本来、モンゴルの遊牧民社会には存在しなかった定住型劇場の〈地域社会における必要性〉を、今後、新たに問い直す時期が来ていることを、今回の地方劇場の調査を通して、考えさせられた。

## II. ロシア連邦・ブリヤート共和国ウラン・ウデにおいて行なった調査

ブリヤート・モンゴル族におけるブリヤート語民族演劇の状況、民族と言語文化の関係について、1999年12月9日～12日の間、ロシア科学アカデミーのブリヤート人学者スレンハンダ女史の協力を得て、調査を行なうことができた。

### 1.ナムスラエワ名称ブリヤート・アカデミック・ドラマ・テアトル／演劇有り◎／

ブリヤート唯一の現代民族劇場であり、ブリヤート語による演劇が上演されている。

「Төөригдэһэн хуби заяан（彷徨った宿命）」（12月9日）

「Будамшу ぼだムシヨ」【写真②】（12月12日）他。

### 2.ブリヤートサーカス ブリヤート人俳優マイダル氏により3年前に設立。

### 3.クリスタル・スペクタクル ブリヤート人の若者によるモダン創作民族舞踊。

### 4.ウラン・ウデ人形劇場 ロシア語による人形劇（ブリヤート語による上演はない）

ブリヤート語演劇が上演される際、観客へのロシア語訳のイヤホンの貸し出しが行なわれているが、ブリヤート語を知らないブリヤート人が多くなり、また、ブリヤート人の数は、ウラン・ウデの総人口の約10%に過ぎず、ブリヤート語演劇は人口と経済問題から維持存続できない状況に差し掛りつつある。今回の調査により、今後は、ブリヤート語を知らない世代がブリヤートの民族文化を継承していくにあたり、ブリヤート・モンゴル族の立場から民族主義を表象した新しい芸術メディアとして、言語を介する演劇ではなく、言語を介さない「サーカス」や「クリスタル・スペクタクル」といった新しいジャンルに受け継がれつつあり、民族文化は、言語文化を越えた形で表象され始めている。

## Ⅲ. 中華人民共和国・内蒙古自治区呼和浩特市において行なった調査

内蒙古自治区呼和浩特市で蒙古語による演劇が行なわれているかを現地の状況を知るために、2000年1月27日から2月2日まで、内蒙古大学蒙言文研究所碩精扎布教授に御協力を頂き、下記の2つの劇場について調査した。

### 1.馬兰恰特（ウラン・テアトル） 1953年設立。現在、中国語映画の上映のみ。

### 2.内蒙古京劇団 呼和浩特市内にある漢族による京劇団。蒙古語劇なし。

内蒙古自治区の蒙古族の人口は全体の約20%にも満たず、また、蒙古族であっても蒙古語を知らない人が増えて来ているため、現在、蒙古語で演劇を上演している劇場はないとのことである。また、内蒙古における映画、演劇などの状況を見る限り、内蒙古の蒙古族において、中国語が母語となりつつある。一方、内蒙古電視台（蒙古語放送）というテレビメディアによって、民族語文化が保持されている。

## Ⅳ. 検閲機関に関する資料収集

文芸検閲機関に関する資料に関しては、検閲の監督・決定を担っていた人民革命党中央局イデオロギー課の決議資料に目を通す必要があるが、人民革命党公文書館の資料を外部の人間が閲覧するのは、現在も困難であり、留学期間終了後も引き続き閲覧申請を続ける予定である。すでに出版されている資料（1920～1940年：人民革命党歴史関連文書／1966年／、1921～1940年：人民革命党小・大会議中央局全会議決議／1956年／、1940～1947年：人民革命党決議文書／1985年／など）の他、国立歴史中央公文書館において、文化省芸術協議会議事録に関する資料を収集し、映像・写真・音響資料館より1950～1970年代の演劇写真資料を入手した。

## Ⅴ. その他

“アジアのモンゴル”をテーマにした演劇を上演することを留学計画に含めていたが、その一貫として、今回の留学中、倉田百三「出家とその弟子」（岩波文庫）をモンゴル語に訳し、ウランバートルにて出版した。国立ドラマ・アカデミック劇場は、同戯曲をムンフドルジ氏の演出によって舞台化することを決め、今年5月に上演される予定である。

【添付写真】



【写真①】



【写真②】